

第三五回日本生命倫理学会年次大会「死生学と生命倫理」

大会概要

二〇一三年一月三〇日、二月一日の両日、死生学・応用倫理センターの主催で日本生命倫理学会第二五回年次大会を東京大学本文一号館、二号館において開催した。年次大会の大会テーマは「死生学と生命倫理」であり、大会長は池澤優、実行委員長は清水哲郎（上廣死生学・応用倫理講座特任教授）、事務局長は堀江宗正（死生学・応用倫理センター准教授）、副事務局長が勝沼聡（死生学・応用倫理センター特任研究員）、他にも圓増文、大島智靖、エリック・シッケタンス、早川正祐、堀田和義、宮村悠介（特任研究員、当時）、安野裕美（事務員）、山本栄美子、金律里（TA、当時）など、死生学・応用倫理センターの関係者が総出で運営にあたった。最終的に参加者は六四五名にのぼり、盛会のうちに終了することができた。

主催校である死生学・応用倫理センターが企画したシンポジウム、講演は以下の通りである。

大会長講演 池澤優「生命倫理と伝統文化」

シンポジウム「日本人の生命観と生命倫理」(オーガナイザー…池澤優、榊原哲也)

竹内整一「花びらは散る 花は散らない」論

下田正弘「仏教の生命倫理観について」

香川知晶「文化の違いと生命倫理」

シンポジウム「死生学と臨床倫理」(オーガナイザー…霜田求、会田薫子)

三浦靖彦「臨床現場における「死生学と生命倫理」」

濱口恵子「患者さんにとって善いこととは?——がん専門病院の看護師の立場から」

樋口範雄「終末期医療と法——決められない法と倫理、その方向性」

清水哲郎「臨床倫理をめぐるケア従事者と研究者の協働」

大会企画 二五周年記念シンポジウム「低線量被曝と生命倫理」(オーガナイザー…堀江宗正)

島蘭進「放射線の健康影響問題の生命倫理的な次元とその討議」

加藤尚武「臨床と予防——放射線障害の認識論」

講演 Nancy Berlinger, "Improving Care Near the End of Life: What Good Can Ethics Do?"

このうち、本号では死生学・応用倫理センターの活動報告として、大会長講演「生命倫理と伝統的文化」とシンポジウム「低線量被曝と生命倫理」を掲載する。但し、後者に関しては特別対談企画として再構成した。